株式会社　坂口製作所
和歌山工場

環境活動レポート

活動期間:2010年10月～2011年3月
作成日:2011年3月31日

はじめに

～今わたしたちにできること、しなければいけないこと～

株式会社坂口製作所は、工業用各種アルミ・ステンレス製品の製造・加工・販売を行っている会社です。私共の生産拠点である和歌山工場は、紀伊山地を縫うように東西に流れる有田川上流のまち、有田川町清水（旧　清水町）にあります。

この地に工場を構え、40年以上の歳月が経過しました。当初3名だった工場従業員は、いまや80名を数えます。私も含めて、殆どの従業員がこの町の住民または出身者です。山にも川にも、子供の頃遊んだ思い出が詰まっています。

私たちは、自分の子供や孫にも、この町で、楽しい思い出をたくさん作ってもらいたいと思っています。そして彼らにも私たちと同じように、自分たちのふるさとを愛してもらいたい。
そのために私たちの世代がしなければならないことは、郷土の美しい自然を守り、次の世代にしっかりとバトンを渡すことです。だから私たちは「今私たちにできること、しなければいけないこと」を始めることにしました。

まだまだ不十分で、不完全な取組かもしれません。しかし、今日よりも明日、明日よりも明後日と、一歩一歩前進したいと考えています。そして私たちの取組が、持続可能な社会の確立に、ささやかなりとも貢献することができれば、これほどうれしいことはありません。

表紙の写真は、有田川町のシンボル的な存在である”あらぎ島”を撮影したものです。島といっても海に浮かぶ島ではなく、有田川の清流に縁取られ、扇型に広がった山裾部分の呼称で、全体が美しい棚田になっています。
四季折々、あらぎ島は違った姿を見せてくれます。春には水田の水面が鏡のように煌き、夏には緑の稲穂が風に揺れ、秋は黄金色に輝き、冬は真っ白な雪化粧をまといます。

・・・・この美しい景色が、いつまでも続くようにと願っています。

平成22年3月26日
株式会社　坂口製作所
代表取締役　坂口　清信

目次

組織の概要 ・・・・・・・・・・ 1

実施体制図及び役割・責任・権限表 ・・・・・・・・・・ 2

環境方針 ・・・・・・・・・・ 3

環境目標と目標達成手段 ・・・・・・・・・・ 4
（1）環境目標（中長期目標） ・・・・・・・・・・ 4
（2）活動期間の目標と達成手段 ・・・・・・・・・・ 5

主な環境活動の内容 ・・・・・・・・・・ 6

自社開発のエコ製品 ・・・・・・・・・・11

環境活動の取組み結果と評価 ・・・・・・・・・・13

環境関連法規への違反・訴訟の有無 ・・・・・・・・・・22

代表者による全体評価と見直しの結果 ・・・・・・・・・・23

組織の概要

（弊社・和歌山工場）

和歌山工場では、お客様からのご注文に応じて日々様々な工業製品を製造しています。
弊社の一番の強みは溶接、特にｱﾙﾐの溶接技術です。（社）軽金属溶接構造協会より「軽金属溶接構造物製造工場M級」に認定された和歌山工場には、JIS資格保有者が多数在籍しており、中には全国競技会入賞経験者もいます。また各種板金加工設備も最新鋭のものを揃えています。

（1）事業者
株式会社　坂口製作所

（2）名称及び代表者
株式会社　坂口製作所
代表取締役　坂口　清信

（3）所在地
本社：
大阪市西成区千本中2-4-14
和歌山工場：
和歌山県有田郡有田川町清水877-1
※認証登録は和歌山工場が対象
※本社は次年度の認証を予定

（4）環境管理責任者及び担当連絡先
責任者：福本芳雄／和歌山工場副工場長
（TEL）0737-25-1150
担当者：平林　新一／品質保証室
（TEL）0737-25-1150

（5）事業内容
工業用各種アルミ・ステンレス製品の設計・開発・製造・加工・販売

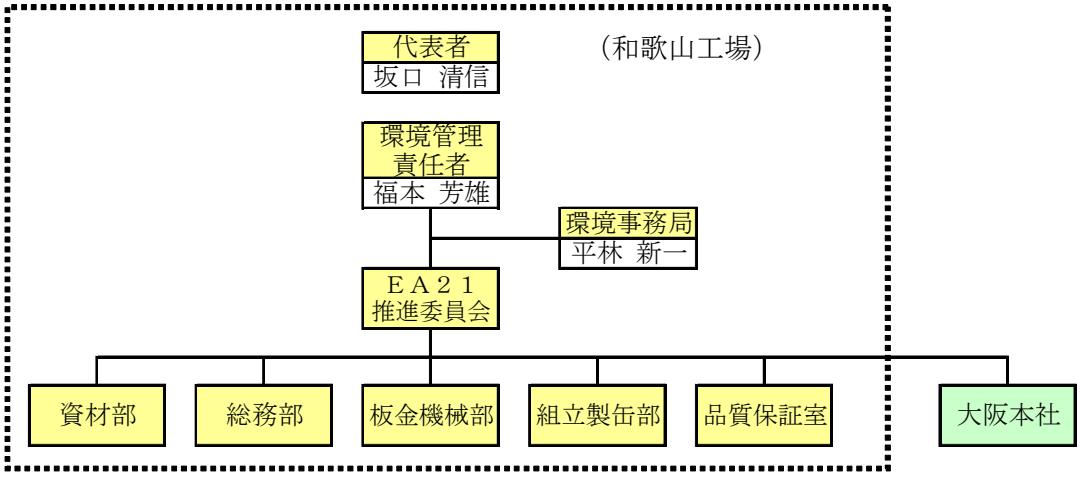
主要製品：
・鉄道車両部品
・信号機具箱
・工業用各種ﾄﾚｰ
・空調関連機器　　等

（6）事業の規模
製品出荷額　11億円／年

	和歌山工場	本社
従業員	80名	8名
延べ床面積	11,200m^2	468m^2

（7）事業年度
10月～翌年9月

実施体制図および役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理、 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

㈱坂口製作所

環　境　方　針

株式会社坂口製作所は、紀伊山地の中央に位置する有田川町清水に生産拠点を構え、緑と有田川の清流に囲まれて日々生産活動を展開しています。地域社会と共生し、社業を発展させていく上で、この美しい自然を守ることは当社の社会的責務であり、またそのことが、引いては地球全体の環境保全にも寄与するものと考えます。

そこで当社では、具体的に以下の項目について全社員で取組んでまいります。

① 環境関連法規制や当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

② 電力・化石燃料使用量の低減を通じて二酸化炭素排出量の削減を進めます。

③ 一般および産業廃棄物の削減を進めます。

④ 排水量の削減を進めます。

⑤ 地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動への協力等を通じて、地域社会とともに環境保全に取組みます。

⑥ ｸﾞﾘｰﾝ調達を計画的に進めます。

⑦ 化学物質については法令を遵守し、適正に管理します。

⑧ エコ関連商品の開発・製造・拡販を進めます。

制定日:2010年11月4日
代表取締役　坂口　　清信

環境目標と目標達成手段

(1) 環境目標(中長期目標)

1. 年度：10月1日 ～ 翌年9月30日
2. 平成21年度(平成21年10月～平成22年9月)を基準年としました。各項目の目標値は、基準年度の実績値に、各年度の基準年度比率を掛けて算出したものです。
3. 購入電力の二酸化炭素排出係数は0.355を採用しています。
4. 金属ｽｸﾗｯﾌﾟは有償品として引き取っていただいているが、発生量が大きいため自主的に管理項目として取り上げました。

年度			H21年度 (H21.10～H22.9)	H22年度 (H22.10～H23.9)	H23年度 (H23.10～H24.9)	H24年度 (H24.10～H25.9)
削減項目			実績(基準年)	目標	目標	目標
二酸化炭素排出量削減	電力の削減	kWh/年	738,691	723,917	709,143	701,756
		kg-CO_2/年	262,235	256,991	251,746	249,124
		基準年度比(%)	100	98	96	95
	化石燃料の削減	ｶﾞｿﾘﾝL/年	9,678	9,484	9,291	9,194
		灯油L/年	23,147	22,684	22,221	21,990
		kg-CO_2/年	83,213	81,549	79,884	79,052
		基準年度比(%)	100	98	96	95
	小計 (電力+化石燃料)	kg-CO_2/年	345,448	338,539	331,630	328,176
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	kg/年	6,950	6,811	6,672	6,603
		基準年度比(%)	100	98	96	95
	産業廃棄物の削減	ton/年	1.8	1.8	1.7	1.6
		基準年度比(%)	100	98	95	90
金属スクラップ削減	金属スクラップ削減	ton/年	109.9	107.7	104.4	98.9
		基準年度比(%)	100	98	95	90
排水量削減	水道水使用量削減	m^3/年	863	846	828	820
		基準年度比(%)	100	98	96	95
環境配慮資材購入	※今期は事務用品のｸﾞﾘｰﾝ調達比率を調査、これを元に次年度以降の目標を設定する。					
製品への環境配慮の推進	梱包資材購入量の削減	kg/年	1593	1,513	1,434	1,354
		基準年度比(%)	100	95	90	85
化学物質の削減	化学物質の削減	kg/年	874	787	699	524
		基準年度比(%)	100	90	80	60

(2) 活動期間の目標と達成手段

活動期間:H22年10月～H23年3月

※ただし10月～12月は活動準備期間、本格的な活動実績は12月中ごろからです。

1. 基準実績とは、基準年度（H21年度）における、今期活動期間と同時期（H21年10月よりH22年3月）の実績値を集計したものです。ただし一般及び産業廃棄物、梱包資材については年間総発生量の1/2を実績として採用しています。
2. 活動期間の目標値は、基準実績に各項目の今年度の基準年度比率を掛けて算出しています。
3. 購入電力の二酸化炭素排出係数は0.355を採用しています。

年度			基準実績	活動期間(H22.10～H23.3)	
削減項目			H21.10～H22.3	目標	目標達成手段
二酸化炭素排出量削減	電力の削減	kWh	363,122	355,860	①作業効率化推進による待機時間の削減 ②不要不急の残業撲滅による電気使用量の削減 ③空調温度の最適化推進
		kg-CO_2	128,908	126,330	
		基準年度比(%)	100	98	
	化石燃料の削減	ｶﾞｿﾘﾝL	834	817	①ｴｺﾄﾞﾗｲﾌﾞの推進 ②ｽﾄｰﾌﾞ使用基準のﾙｰﾙ化と徹底
		灯油L	3,985	3,906	
		kg-CO_2	70,417	69,009	
		基準年度比(%)	100	98	
	小計 (電力＋化石燃料)	kg-CO_2	199,325	195,339	
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	kg	3,475	3,406	①社内LAN、DB利用推進による文書の電子化 ②打合せ・会議のﾍﾟｰﾊﾟﾚｽ化の推進 ③1枚ﾍﾞｽﾄ運動の推進
		基準年度比(%)	100	98	
	産業廃棄物の削減	ton	0.90	0.86	①分別回収の検討
		基準年度比(%)	100	95	
金属スクラップ削減	金属スクラップ削減	ton	55	54	①素材の歩留り向上 ②加工ﾐｽによるﾛｽの低減 ③ｸﾚｰﾑの発生撲滅
		基準年度比(%)	100	98	
排水量削減	水道水使用量削減	m^3	381	373	①節水の呼び掛け
		基準年度比(%)	100	98	
環境配慮資材購入					①間伐材等を利用した製品の購入・利用拡大 ②ｸﾞﾘｰﾝ調達比率の拡大
製品への環境配慮の推進	梱包資材購入量の削減	kg	796	757	①繰返し利用可能な通い箱の活用推進 ②現場に出回ったﾋﾞﾆｰﾙ袋の回収・再利用 ③簡易包装の推進・多重包装の見直し ④自社独自の環境保全型商品の開発
		基準年度比(%)	100	95	
化学物質の削減	化学物質の削減	kg	437	393	①代替剤の検討
		基準年度比(%)	100	90	

主な環境活動の内容

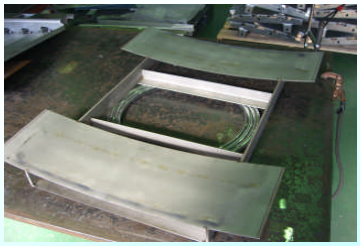
1. 二酸化炭素排出量の削減

1-1. 電力の削減

①作業効率化推進による待機時間の削減

活動事例：各種治具・ｹﾞｰｼﾞの開発・使用

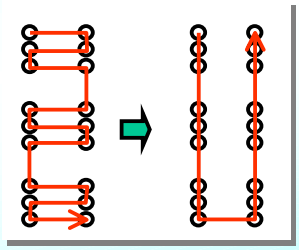
製缶Ｉ課のQCｻｰｸﾙ「ｷﾞｬﾝﾌﾞﾗｰⅡ」では、JR鉄道車輌向け部品製作に使用する各種のｹﾞｰｼﾞや治具を開発、これを使用することによって作業の効率化を達成しました。



現在使用している治具の一例

活動事例：NCTﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ変更による加工時間の短縮

機械課のQCｻｰｸﾙ「ﾚｲﾝﾎﾞｰ」では、ある製品で使用される部品のNCT加工ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを見直し、部品1個当りの加工時間の11.2％短縮を達成しました。



C面取り加工順変更の模式図

②不用不急の残業撲滅による電気使用量の削減

・人員配置を柔軟に見直し、工程がﾀｲﾄな物件に優先的に割り振りました。

③空調温度の最適化徹底（冷房28℃、暖房20℃）

・啓発ﾎﾟｽﾀｰを作成、それを所内に掲示し、協力を呼びかけました。

④その他

・年末に所内ｴｱｺﾝのﾌｨﾙﾀｰ清掃を実施しました。

空調温度最適化啓発ﾎﾟｽﾀｰ掲示例

1-2. 化石燃料の削減

①ｴｺﾄﾞﾗｲﾌﾞの推進

・ｴｺｱｸｼｮﾝ推進委員会で啓発ﾎﾟｽﾀｰを作成、社用車内に掲示し、急発進、急加速や空ぶかしの排除、ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟへの協力を呼びかけました。

ｴｺｱｸｼｮﾝ啓発ﾎﾟｽﾀｰ掲示例

②ｽﾄｰﾌﾞ使用基準のﾙｰﾙ化と徹底

・これまで曖昧だった作業場のｽﾄｰﾌﾞの使用基準をﾙｰﾙ化（※平成22年11月15日の安全衛生委員会で策定）、協力を呼びかけました。

・昼休み中のｽﾄｰﾌﾞの消火を徹底しました。

2. 廃棄物排出量の削減

2-1. 一般廃棄物の削減

①社内LAN、DB利用推進による文書の電子化

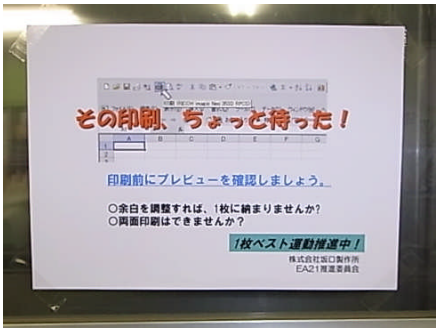
・ｻｰﾊﾞによるﾃﾞｰﾀの共有化を推進しました。

②打合せ、会議のﾍﾟｰﾊﾟｰﾚｽ化の推進

・参加者全全員への資料配布を、部署単位1部のみに変更することを検討中。

③1枚ﾍﾞｽﾄ運動の推進

・啓発ﾎﾟｽﾀｰを作成・掲示し、協力を呼びかけました。同時に、印刷実行前ﾌﾟﾚﾋﾞｭｰ確認の徹底による印刷ﾐｽ低減を進めました。



1枚ﾍﾞｽﾄ運動啓発ﾎﾟｽﾀｰ掲示例

2-2. 産業廃棄物の削減

①素材の歩留まり向上

・製品別で歩留りのいいｻｲｽﾞの板（ｽｹｯﾁ材）を購入しました。

②加工ﾐｽによるﾛｽの低減

・機械課QCｻｰｸﾙ「PAQ」では、現場作業者の声をﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸして板金展開・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに反映させ、加工後の寸法精度向上を進めました。

・品質保証室は毎週月曜日、前週に不良を発生させた部署・ｸﾞﾙｰﾌﾟの朝礼に出席して不良内容の説明を行い、再発防止を促しています。

③クレームの発生撲滅

・品質保証室は毎月1回、全体朝礼で前月に発生したｸﾚｰﾑ数・内容を報告し、注意喚起を行っています。

3. 排水量削減

3-1. 水道水の削減

①節水の呼び掛け

・啓発ポスターを作成・掲示し、協力を呼びかけました。

節水啓発ﾎﾟｽﾀｰ掲示例

②その他

活動事例:ﾄｲﾚ用音消し擬音機の試験設置

ﾄｲﾚの音消し擬音機を試験的に1個設置し、設置後1ヶ月が経過した時点で利用者を対象にｱﾝｹｰﾄ調査を実施しました。その結果、擬音機そのものの有効性は認めるものの、機種の変更を求める声が多いことがわかりました。今後、他機種のテスト使用を経て、各個室への設置を進めていく予定です。

音消し擬音機

4. 環境配慮資材購入

4-1. 購入資材への環境配慮

①間伐材等を利用した製品の購入・利用拡大

活動事例:間伐材を用いたﾊﾟﾚｯﾄの使用

地元の間伐材を用いたﾊﾟﾚｯﾄを作成、出荷時の梱包に利用しています。

地元の間伐材を用いたﾊﾟﾚｯﾄ

②ｸﾞﾘｰﾝ調達比率の拡大

・ｸﾞﾘｰﾝ調達比率の調査を実施しました。

5. 製品への環境配慮の推進

5-1.製品への環境配慮

①繰返し利用可能な通い箱の活用推進

活動事例:アルマイト通い台車の製作と利用

組立課のQCサークル「アンフィニ」では、和歌山工場と外注先のアルマイト加工業者間を行き来する部品を積載する通い台車を製作・利用しています。従来は傷防止のためエアーキャップ等で厳重に梱包していたのですが、本台車の利用により不要となりました。

アルマイト通い台車

②現場に出回ったビニール袋の回収・再利用

・機械課のQCサークル「SMP」では、所内で使用するビニール袋の回収・再利用を進めています。

③簡易包装の推進、多重包装の見直し

・過剰包装をあらためてストレッチフィルム・エアーキャップの使用量を低減する活動を推進中です。

④自社独自の環境保全型商品の開発

※詳細は次章を参照ください。

6. その他

①環境教育

・H22年12月20日、全体朝礼にてエコアクション21の目的、概要および弊社の取組を社長より説明しました。

・エコアクション21に関する通知、状況報告を掲示する掲示板を作成しました。

エコアクション21説明会(H22.12.20)

エコアクション21掲示板

②環境ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ

・環境方針を自社HP上にｱｯﾌﾟしました。

※本環境活動ﾚﾎﾟｰﾄも、近日中に公開する予定です。

・地元小学校児童が工場見学に来てくれました。

楠本小学校（H22.10.28）

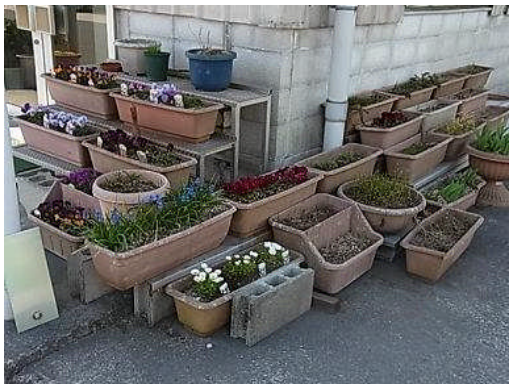
八幡小学校（H22.11.18）

・平成23年3月11日に発生した東日本大震災の募金活動に協力いたしました。

・活動期間内における公共機関、近隣住民などからの苦情はありませんでした。

③事業所の緑化推進

・本事務所入り口周辺のｽﾍﾟｰｽに花壇を設置しました。



④緊急地震速報受信機の設置

・東南海地震における被害を最小限にするため、緊急地震速報受信機を和歌山工場に設置しました。

※現在、同設備を使った避難訓練を計画中です。

自社開発のエコ製品

基本的にお客様からの注文に応じて製品を製造している弊社にも、いくつかのｵﾘｼﾞﾅﾙ製品があり、中にはｴｺに資するものもあります。今後はこのようなエコ製品を、お客様に積極的に提案していく予定です。また新しいｴｺ製品の開発も進めます。

(1)FFU(DCﾓｰﾀｰ)ﾛｰｶﾙ制御

FFUとは、ﾌｧﾝﾌｨﾙﾀｰﾕﾆｯﾄ(Fun Filter Unit)の略称で、ｸﾘｰﾝﾌﾞｰｽの天井に設置され、ﾌﾞｰｽ内に清浄な空気を送り込む装置です。一般的にはACﾓｰﾀｰが利用されるのですが、弊社では直流ﾌﾞﾗｼﾚｽﾓｰﾀｰ(DCﾓｰﾀｰ)を組み込んだFFUを製造しています。

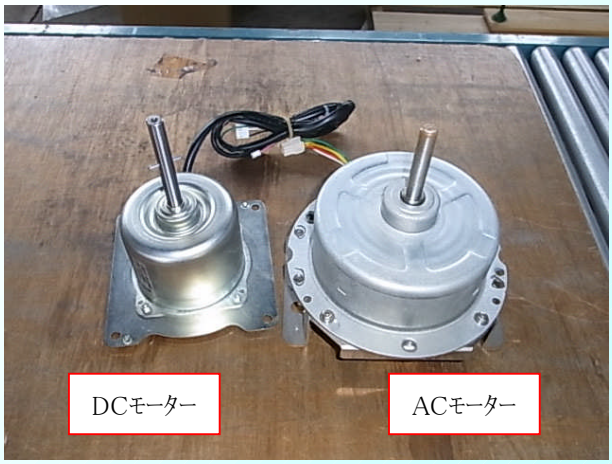
DCﾓｰﾀｰはACﾓｰﾀｰよりも小型で、約30%の節電が可能です。さらに弊社で開発した配電盤と組み合わせて使用することで、回転数を500～1200回転まで制御することが可能です。設置場所、操業ﾀｲﾐﾝｸﾞに応じて風量を用意に調整できることから、さらなる節電効果が期待できます。

※他にも本製品には以下のような特徴があります。

・ﾓｰﾀｰの小型化により、本体厚さを従来品に比べ約37%低減

・従来品比で約43%の本体重量の軽量化を達成

自社開発FFU

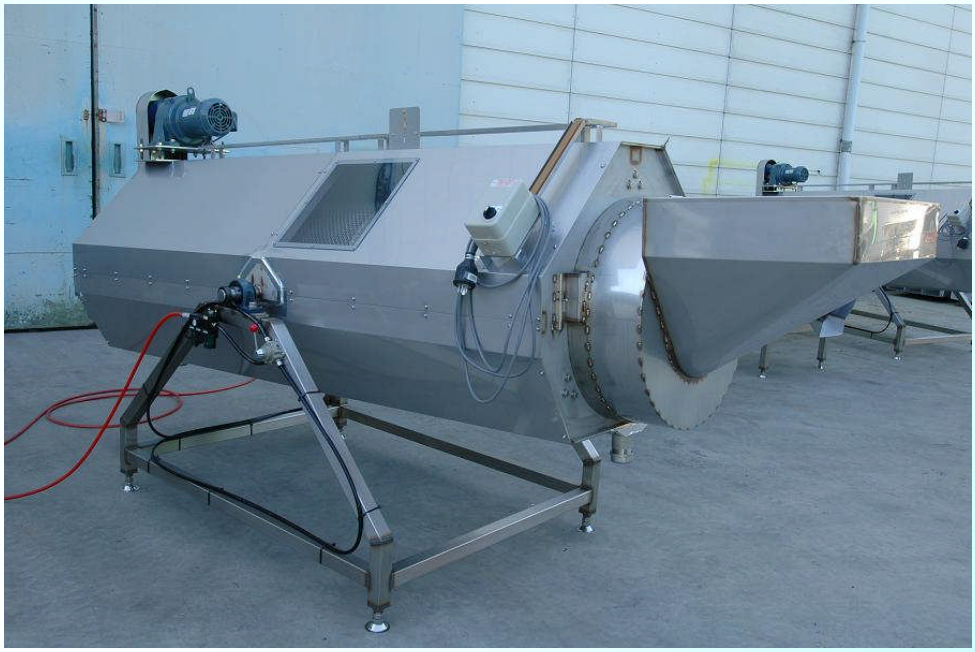


DCﾓｰﾀｰとACﾓｰﾀｰの比較

(2) 回転式乾燥機

実験用動物を飼育されている会社様より依頼を受け、弊社にて設計・製造した製品です。こちらの会社様では飼育用ｹｰｼﾞの底に敷き詰める木片ﾁｯﾌﾟを洗浄して再利用しておられるのですが、従来、洗浄後の乾燥にはｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞを使用されておられました。しかしながらこの方法では時間が掛かる上に乾燥具合にﾑﾗが出てしまいます。

そこで、ご相談を受けた弊社にて製作いたしましたのが、下記の回転式乾燥機です。本製品では洗浄後のﾁｯﾌﾟを写真右側の投入口から内部の回転ﾄﾞﾗﾑに投入、木片ﾁｯﾌﾟを回転させながら乾燥させます。熱源にはお客様の工場内で発生する廃熱を利用しています。本製品の利用により、従来の方法に比べ、乾燥時間の大幅な削減が可能となりました。また乾燥具合のﾑﾗもほとんどないとのことで、大変好評を頂いております。



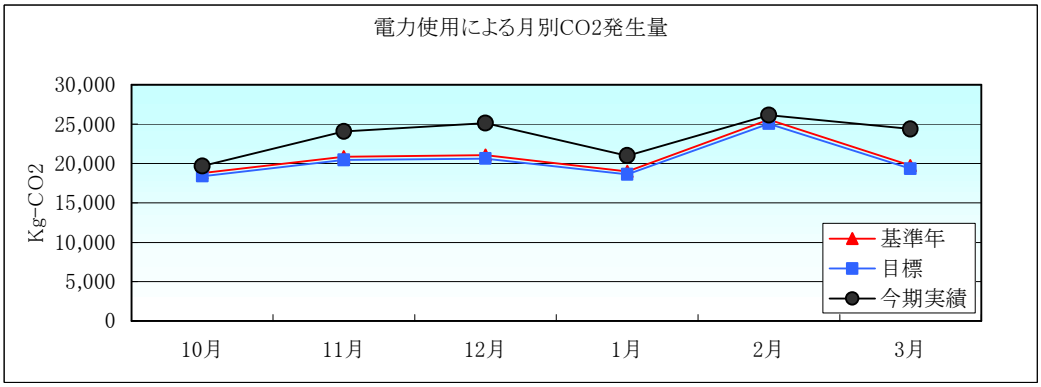
回転式乾燥機

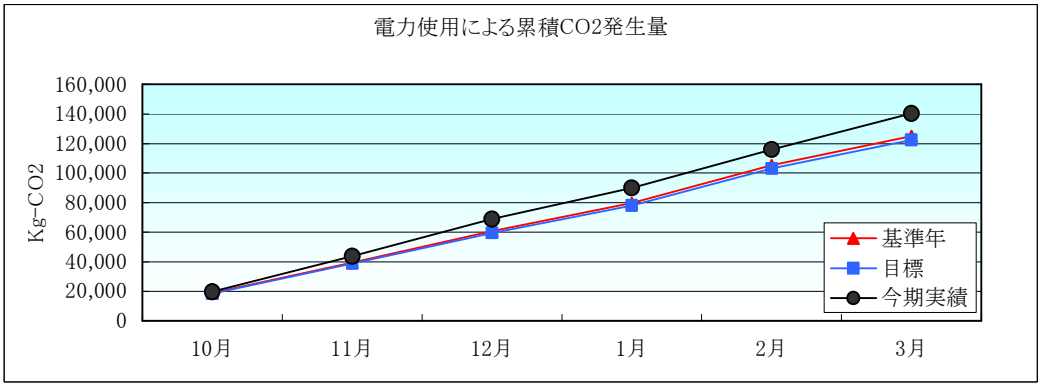
取組結果と評価

1. 二酸化炭素排出量の削減
1-1. 電力の削減

評価基準:
※月別および累積実績値がいずれも目標をｸﾘｱしていれば○
※月別または累積実績値のいずれかが目標をｸﾘｱしていれば△
※上記以外は×

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合評価
基準年 kWh	54,775	60,275	62,199	55,143	73,311	57,419	×
基準年 kg-CO2	18,777	20,853	21,058	18,990	25,572	19,731	
(累計)	18,777	39,630	60,688	79,678	105,251	124,981	
目 標(月別)	18,402	20,436	20,637	18,611	25,061	19,336	
(累計)	18,402	38,837	59,474	78,085	103,146	122,482	
今期 kWh	55,416	67,775	70,800	59,089	73,657	68,684	
今期 kg-CO2	19,673	24,060	25,134	20,977	26,148	24,383	
(累計)	19,673	43,733	68,867	89,843	115,992	140,374	
評 価	×	×	×	×	×	×	



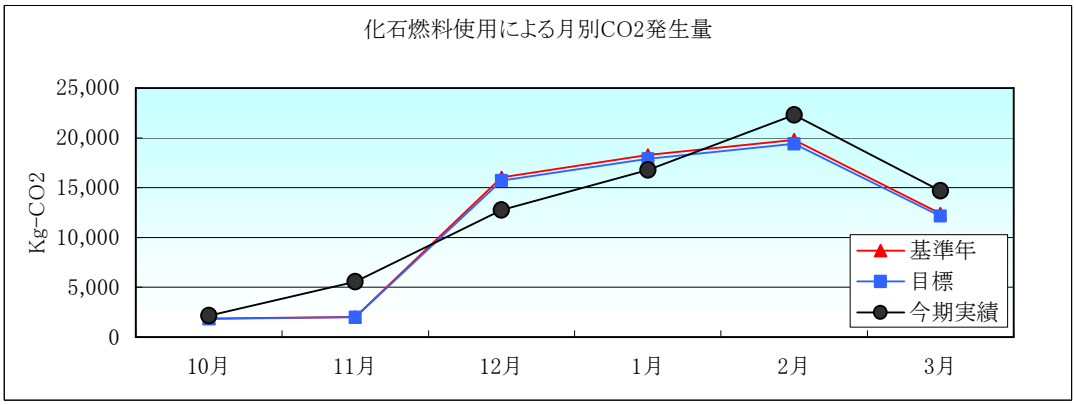


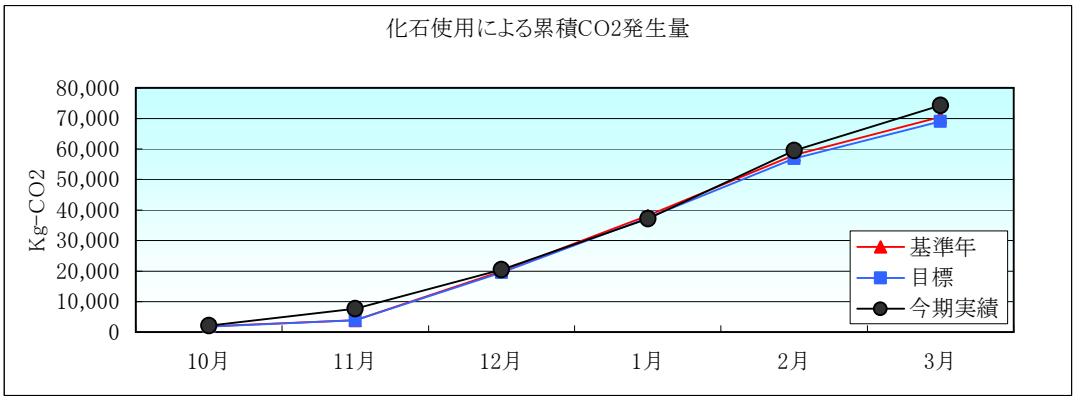
ｺﾒﾝﾄ:

残念ながら今活動期間にわたって目標値はもちろん、前年同時期の実績値をも上回る結果となりました。通年では最低でも昨年実績値を下回れるよう、活動内容の見直しを進めます。

1-2. 化石燃料の削減

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合評価
基準年ガソリン L	810	881	721	685	926	834	△
灯油L			5,473	6,355	6,722	3,985	
(月別)Kg-CO2	1,880	2,046	16,036	18,268	19,792	12,395	
(累計)Kg-CO2	1,880	3,926	19,962	38,230	58,022	70,417	
目標(kg-CO2)	1,842	2,005	15,715	17,903	19,396	12,147	
(累計)	1,842	3,847	19,563	37,466	56,861	69,009	
今期実績ガソリン L	927	830	883	829	1,136	749	
灯油L	0	1,384	4,076	5,651	7,489	4,933	
(月別)Kg-CO2	2,152	5,559	12,747	16,755	22,291	14,684	
(累計)Kg-CO2	2,152	7,711	20,457	37,212	59,503	74,186	
評　価	×	×	△	○	×	×	



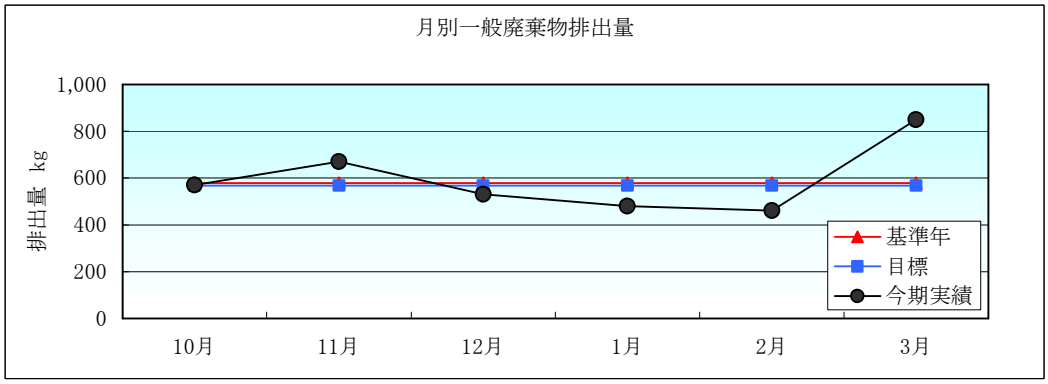


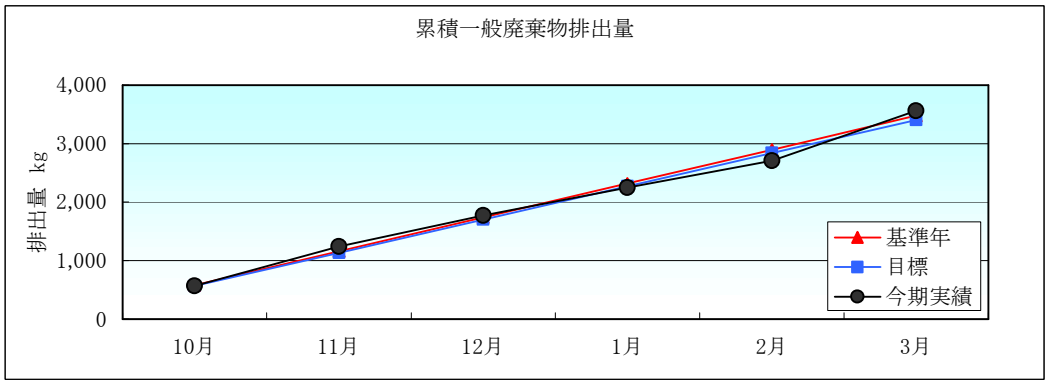
コメント:

12、1月で前年度実績を下回り(1月については目標もクリア)できたのですが、最終的な累積では残念ながら前年度実績を上回る結果となってしまいました。月ベースの使用量をしっかり管理しながら、通年での目標達成を目指します。

2. 廃棄物排出量の削減
2-1. 一般廃棄物の削減

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合評価
基準年kg	579	579	579	579	579	579	×
(累計)	579	1,158	1,738	2,317	2,896	3,475	
目標(月別)	568	568	568	568	568	568	
(累計)	568	1,135	1,703	2,270	2,838	3,406	
今期実績(月別)	570	670	530	480	460	850	
(累計)	570	1,240	1,770	2,250	2,710	3,560	
評　価	×	×	△	○	○	×	



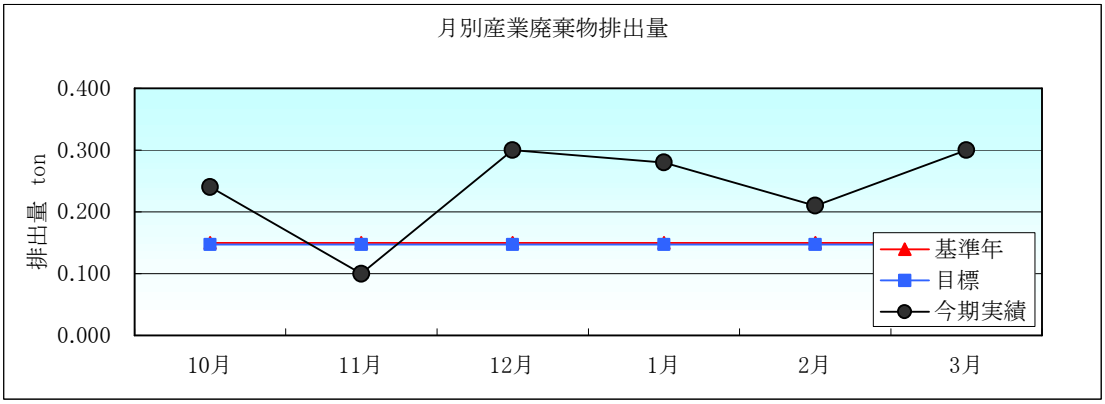


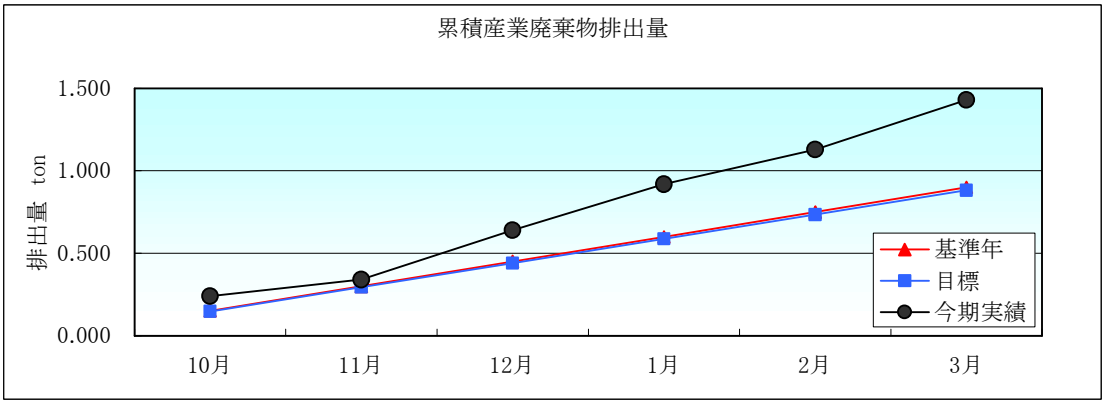
コメント:

一般廃棄物は引き取り、搬送のﾀｲﾐﾝｸﾞで月別発生量に大きなﾊﾞﾗﾂｷが発生するため、ここでは昨年度1年間の総発生量を12等分した値を基準年度月別発生量とし、これより目標値も計算しています。順調なﾍﾟｰｽで推移していたのですが、3月の発生量が増加したため、半期終了時点では累積で昨年実績を超過する結果となってしまいました。

2-2. 産業廃棄物の削減

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合評価
基準年 トン	0.150	0.150	0.150	0.150	0.150	0.150	×
(累計)	0.150	0.300	0.450	0.600	0.750	0.900	
目 標 (月別)	0.147	0.147	0.147	0.147	0.147	0.147	
(累計)	0.147	0.294	0.441	0.588	0.735	0.882	
今期実績(月別)	0.240	0.100	0.300	0.280	0.210	0.300	
(累計)	0.240	0.340	0.640	0.920	1.130	1.430	
評 価	×	△	×	×	×	×	



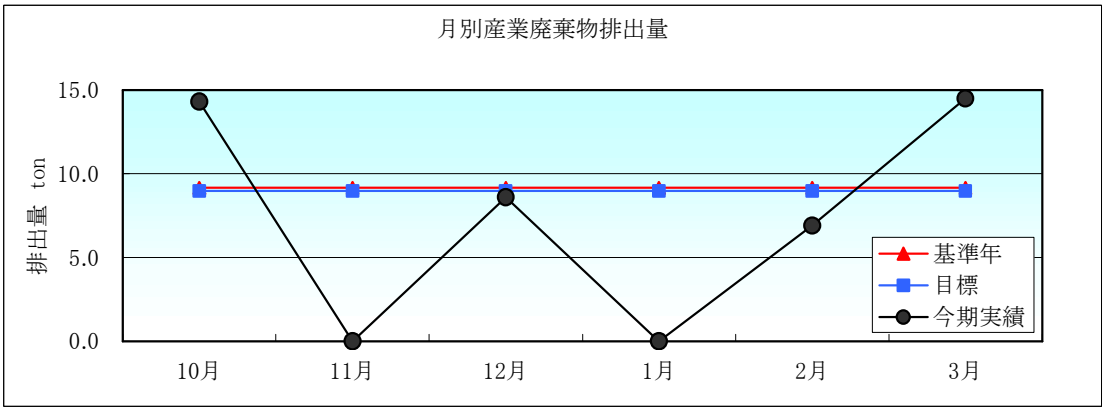


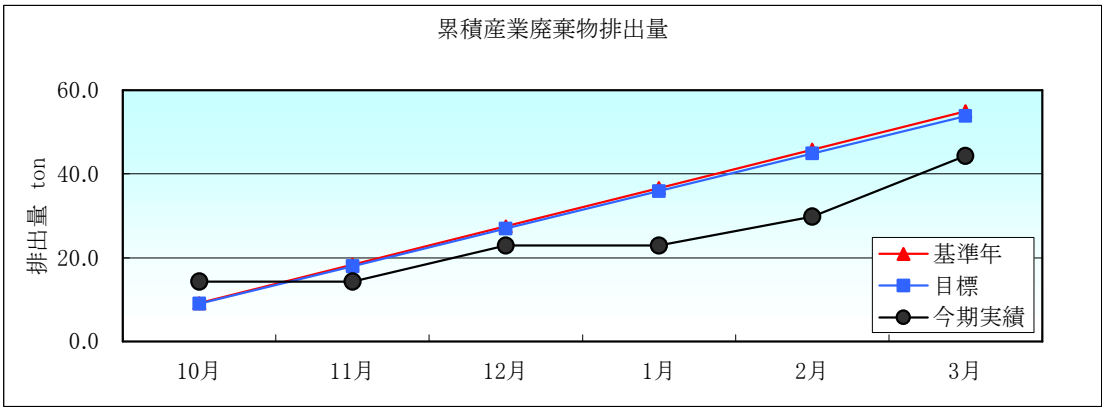
コメント:

産業廃棄物についても昨年度の実績発生総量を12等分したものを基準年度月別発生量とし、目標値もこの値を元に計算しています。累積で目標はおろか前年度実績を大きく上回る結果となりました。弊社生産形態が基本的に総受注生産であることから、産廃排出量も受注アイテムに大きく左右されます。通年では最低でも昨年実績値を下回れるよう、さらなる分別回収の徹底を進めます

3.金属ｽｸﾗｯﾌﾟの削減

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合評価
基準年　トン	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	○
(累計)	9.2	18.3	27.5	36.6	45.8	55.0	
目　標　(月別)	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	
(累計)	9.0	18.0	26.9	35.9	44.9	53.9	
今期実績(月別)	14.3	0.0	8.6	0.0	6.9	14.5	
(累計)	14.3	14.3	22.9	22.9	29.8	44.3	
評　価	×	○	○	○	○	△	



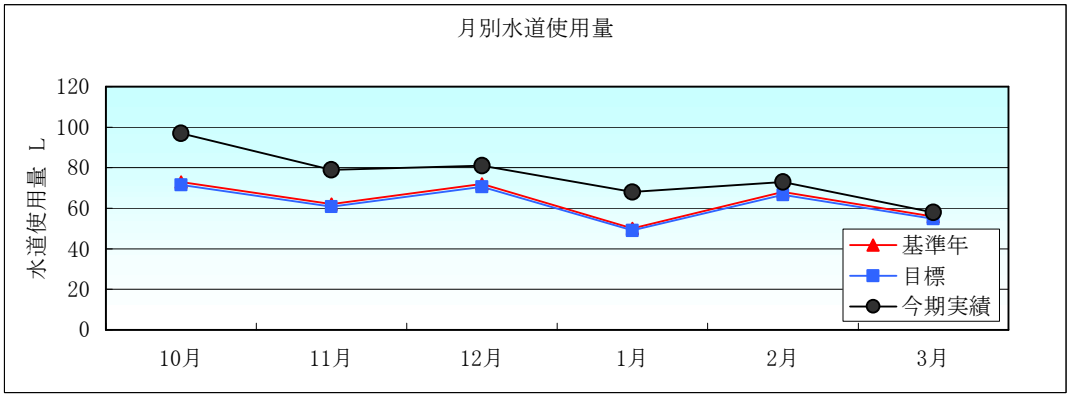


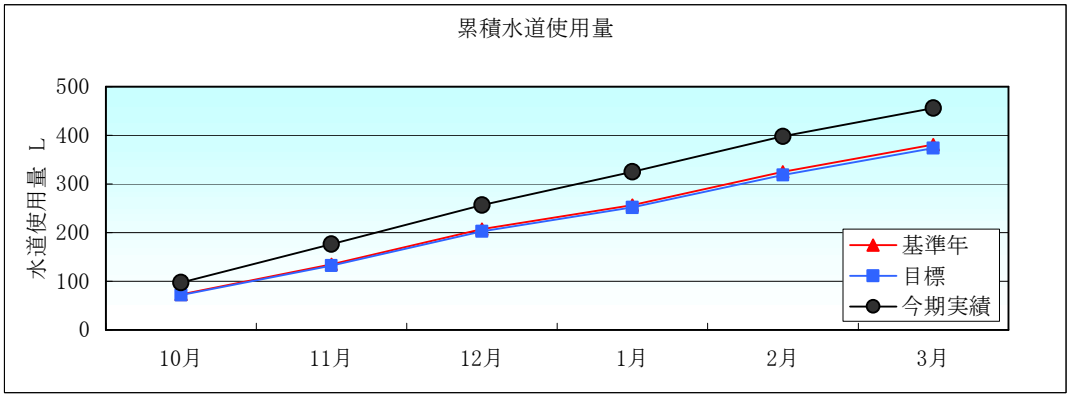
ｺﾒﾝﾄ:

金属ｽｸﾗｯﾌﾟは有償で引き取っていただいているのですが、発生量が大きいため、自主的に管理項目に設定しました。基準年度月別発生量、目標値の考え方は一般廃棄物、、産業廃棄物と同じです。本項目については半期終了時点で累積で目標達成しています。引き続き削減を進め、通年でも目標達成を目指します。

4. 排水量の削減

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合評価
基準年 m³	73	62	72	50	68	56	×
(累計)	73	135	207	257	325	381	
目 標 (月別)	72	61	71	49	67	55	
(累計)	72	132	203	252	319	373	
今期実績(月別)	97	79	81	68	73	58	
(累計)	97	176	257	325	398	456	
評 価	×	×	×	×	×	×	





コメント:

排水量そのものは現在のところモニターできていませんので、次善の策として水道使用量を指標に用いました。残念ながら活動期間にわたって目標および基準年度を上回る結果となってしまいました。今後活動内容の見直しも含めて更なる削減を進め、夏場の使用量を抑制し、通年での目標達成を目指します。

5. 環境配慮購入資材

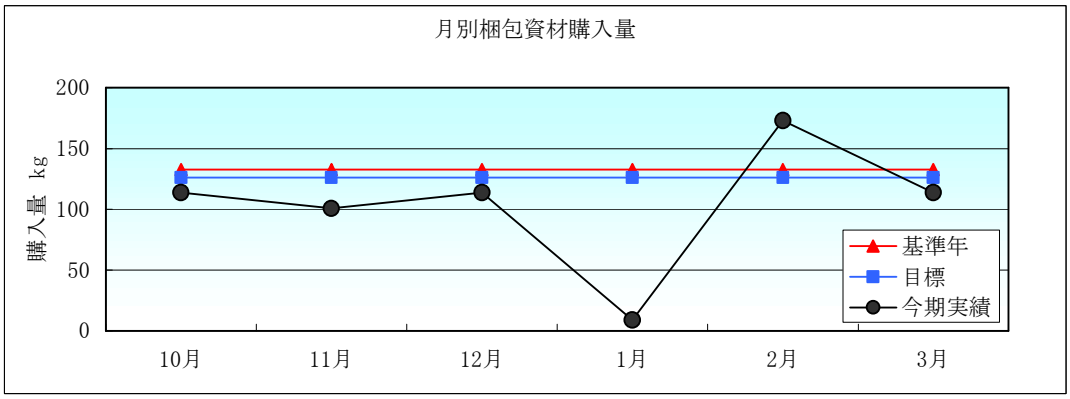
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
母数	55,993	102,274	77,137	45,493	50,900	59,630	**391,427**
グリーン購入	46,056	48,916	28,978	13,435	33,848	22,580	**193,813**
比率	82%	48%	38%	30%	66%	38%	**50%**

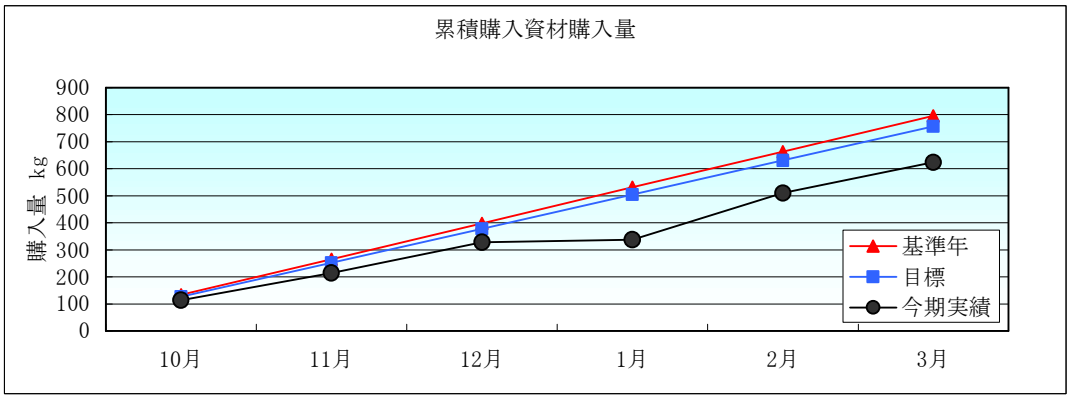
コメント:

グリーン調達に関してはこれまで調査したことがなかったため、今活動期間は現状調査を実施し、今後の目標設定のベースとすることにしました。調査の結果、トータルのグリーン購入比率は、購入額全体のほぼ半分ということがわかりました。今後、さらなる比率向上を目指した活動を展開していきます。

6. 製品への環境配慮の推進

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合評価
基準年 kg	133	133	133	133	133	133	○
(累計)	133	265	398	531	664	796	
目 標 (月別)	126	126	126	126	126	126	
(累計)	126	252	378	504	630	757	
今期実績(月別)	114	101	114	9	173	114	
(累計)	114	215	328	337	510	624	
評 価	○	○	○	○	△	○	



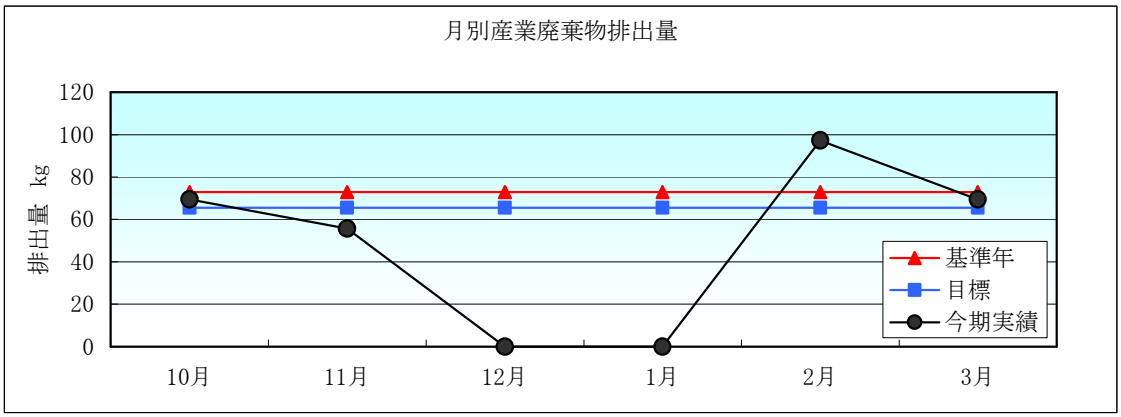


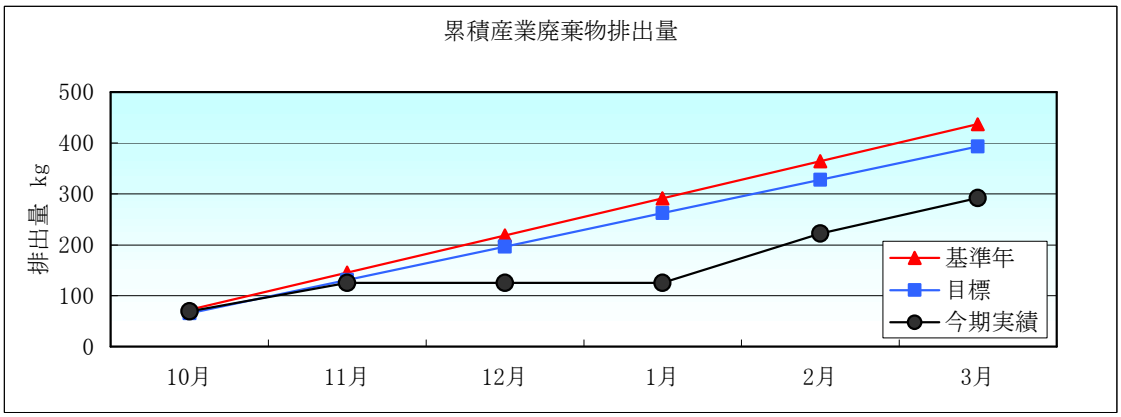
コメント:

梱包資材についても発注タイミングで月別の購入量にバラツキが生じるため、昨年度の1年間の購入量を12等分した値を基準年月別購入量とし、これより目標値を求めました。活動期間にわたって目標を達成することができました。今後も引き続き梱包資材の削減に注力します。

7 化学物質の削減

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合評価
基準年 kg	73	73	73	73	73	73	○
(累計)	73	146	219	291	364	437	
目 標 (月別)	66	66	66	66	66	66	
(累計)	66	131	197	262	328	393	
今期実績(月別)	70	56	0	0	97	70	
(累計)	70	125	125	125	222	292	
評 価	×	○	○	○	△	△	





コメント:

化学物質も基準年度月別発生量は昨年度総使用量を12等分して求め、目標もこの値を元に計算しました。半期終了時点で目標達成できています。代替剤への切替を進めることで更なる使用量削減を進め、通年でも目標達成を目指します。

環境関連法規等への違反・訴訟の有無

当社が適用を受ける環境関連法規制等は下記の通りです。なお、過去3年にわたり当社への環境関連法規違反等の指摘、近隣住民からの苦情はありません。

法規制等の名称	該当する要求事項	該当する設備・項目	評価
工場立地法	・対象工場:　製造業 敷地＞9000m^2 または建築面積＞3000m^2	工場・事業場が工場の新設、変更に伴う一定規模以上の緑地や環境施設の確保を図る	○
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	騒音・振動に係る指定地域であって特定施設設置工場における公害防止管理者の設置届出	・液圧、機械ﾌﾟﾚｽ等、工作機械等、ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ、天井走行ｸﾚｰﾝ、ｸｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ等 ・騒音(振動)公害防止管理者の選任、届出	○
労働安全衛生法	雑誌「溶接技術」　2003.7号　特集記事	―	○
廃棄物処理法	・委託基準：　一廃収集業者の許可の確認	一般廃棄物（紙くず・生ごみなど）	○
	・委託基準：　産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	産業廃棄物 （化学薬品・廃ﾌﾟﾗ類）	○
	・保管基準：　飛散・浸透防止・衛生管理		○
	・ﾏﾆｭﾌｪｽﾄ交付		○
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	荷受流通経路証明書	○
	・自社による運搬時の表示、書類携行	産廃収集車の表示ﾏｸﾞﾈｯﾄｼｰﾄ	○
騒音規制法	・地域別騒音基準の順守	ﾀﾚﾊﾟﾝ他各種ﾌﾟﾚｽ・ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ 溶接歪取り作業	○
振動規制法	・地域別振動基準の順守	ﾀﾚﾊﾟﾝ他各種ﾌﾟﾚｽ	○
NOX・PM法	・対策地区内で排気ｶﾞｽ規制に適合した自動車の使用	ﾄﾗｯｸ・ﾊﾞﾝ等	○
消防法	・指定数量未満の危険物保管の扱い	少量危険物保管庫	○
高圧ｶﾞｽ保安法	・高圧ｶﾞｽ容器置場や充てん容器は、容器 置場の技術上の基準に従う。 ・容器の定期検査	ﾎﾞﾝﾍﾞ類の転倒防止 40℃以下、警戒標など	○
三菱電機ｸﾞﾘｰﾝ　調達基準	・指定化学物質の管理(非使用・基準遵守等) ・環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｼｽﾃﾑの運用	納入する部品	○

※下記については直接抵触しないが、別途自主管理基準を設けて管理することとする。

水質汚濁法	・排出基準の順守		○
PRTR法	・第1種指定化学物質取扱者は排出・移動量を報告 (年間取扱量1ﾄﾝ以上で従業員21名以上の場合)	第1種指定化学物質（462物質） 例：ﾄﾙｴﾝ	○
	・性状及び取扱に関する(MSDS)の受取・発行	第2種指定化学物質 (100物質も対象)	○

代表者による全体評価と見直しの結果

・まだ手探りで活動を進めている感は拭えないが、活動方針や目標は徐々にではあるが社員一人一人に浸透してきているように感じられる。

・半期終了時点で目標未達に終わっている項目（※電力、化石燃料、一般および産業廃棄物、排水量）については、残り半期での巻き返しに期待する。絶対量の評価が難しい場合は、他の評価方法について検討を進めること。

・教育や訓練については計画に遅延なきよう実施すること。

見直し実施日：2011年3月31日
株式会社坂口製作所
代表取締役　坂口　清信